

## 令和8年度 第1回 白脇小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年5月21日（木） 13時15分から15時00分まで
- 2 開催場所 白脇小学校 会議室
- 3 出席委員 田口 博、外波山 裕康、馬淵 豊  
大石 絵理(学校支援コーディネーター兼務)  
鈴木 妙絵子(学校支援コーディネーター兼務)、中村 真弓  
小杉 理沙
- 4 欠席委員 柳川 樹一郎、清水 哲夫
- 5 オブザーバー 笠原 直人（白脇協働センター）
- 6 学 校 神 宏之（校長）、廣野 希代美（教頭）、服部 優（教頭）、  
榛葉 崇文（主幹）、甲斐 尚子（CSディレクター・学校支援コーディネーター）
- 7 教育委員会 磯部 志保（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 甲斐 尚子

### 10 議長の選出

司会の榛葉から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、外波山委員からの推薦により、全員異議なくこれを承認した。

### 11 協議事項

- (1) 学校運営の基本方針・いじめ防止等のための基本的な方針について  
※業務量管理・健康確保措置に関することも(校長説明→質疑→承認)
- (2) 学校運営に必要な支援として  
(今年度のコミュニティスクールの取り組みの具体案について)
- (3) 学校運営協議会の自己目標の確認・決定
- (4) 夢育やらまいか事業に対する意見書(案)について

### 12 会議記録

司会の榛葉から、委員総数9名のうち7名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

- (1) 学校運営の基本方針・いじめ防止等のための基本的な方針について
- (2) 学校運営に必要な支援として  
(今年度のコミュニティスクールの取り組みの具体案について)

議長の指示により、校長から、協議事項(1)(2)について別紙資料に基づき学校運営基本方針および、いじめ防止等のための基本的な方針について、また学校運営に必要な支援の必要性について説明がある。主な内容は、以下の通りである。

#### ・ 学校運営の基本方針の説明

「頭」確かな学力、「心」豊かな心、「体」健やかな体の3つの柱をたて、課題解決にむけて困難なことにも「粘り強く」「柔軟に」考え、立ち向かえる逞しい子を育てていくという白脇小学校グランドデザインの要点説明。学校ができることとして「主体性のアップグレード」「多様性の包摂」、家庭と地域と学校が共同して「実現可能性の確保」について説明。

- ・ いじめ防止等のための説明

いじめ防止基本方針のいじめの定義より、いじめと捉えられる件数が増加している。学校としては、年度当初に全職員でいじめの定義を共有している。また「気持ちのよいあいさつができる元年」とした昨年度の取り組みを、今年度は2年目として、あいさつに1秒で相手に伝わる言葉をプラスさせることで、豊かな心を育てる土壌を作りたい。校外のあいさつ活動はタスキを付けている、横断旗を持っている、安全推進のチョッキを着ている大人には積極的にあいさつをしていくことを展開したいとの説明。

- ・ 学校運営に必要な支援として

「行ってきます」から「ただいま」を見守る地域の体制づくりと子ども達の教育の見届け体制づくりへの協力を求めた。

委員からは、以下の発言があった。

- ・ 学校がある時間に動ける地域の高齢者はいるが、学校に行き、協力してもらうのは難しい。学校に行くだけではなく、指導や取り組みにどの程度参加出来るのだろうか。(外波山委員)
- ・ 昔の教員は「子どもと関わるのが楽しかった」が、今の教員は本来の業務でない仕事が多く、社会からの求めも増加しているため負担が多すぎて疲れている。(馬淵委員)
- ・ 今年度学校で募集してボランティアは約150名登録があり、先生と協力して子どもに関われる。しかし年度初めの繁忙期の中手続きの時間がかかったり、先生と連携が取りにくかったりして対応できないのはもったいない。
- ・ クラブの昔遊び、生活科の授業など保護者以外の高齢者に対して回覧板や協働センターなどで協力してもらうのはどうか。(大石委員)
- ・ 家庭は核家族化や多国籍化が進んでいるので、ボランティアという親以外の大人と関わることは子どもにとって大切。(鈴木委員)
- ・ 自分の力が生かせる場面をもっと知らせて、ボランティアに参加してもらいたい。また小学生の子どもを持たない家庭へのよびかけ方も検討したらどうか。(鈴木)
- ・ 授業中に問題があった時に担任が問題対応をしている間、クラスの他の子どもの指導が出来ない。指導として入るといふより、隙間の補助としても人手は欲しいと感じる。(中村委員)
- ・ 子どもが先生や大人に何をしてもらいたいかを知りたい。子どもの要望を知ること、支援が見えてくるのではないかと(田口委員)
- ・ 書道の学習ボランティアに入ってみて、3年生になっても何の道具も分からない子どもがいて、ボランティアの必要性を感じた。参加することにハードルを感じていたが、参加すると見守っているだけでも良いと感じたので、学校のボランティアがそんなに難しくないということを知ってほしい。参加した人の感想を発信してみてもどうか。また親だけでなく祖父母にも呼び掛けてはどうか。(小杉委員)
- ・ 親は共働きが多く、ボランティアに出にくい家庭もある。ボランティア団体があるのに認知されていなくて、活用できていないのではないかと。(馬淵委員)

- ・ 高齢者ボランティアも指導者としてか、お手伝いとしてかにより内容がちがう。また事故やけがなど、リスクがあるため、依頼する範囲を慎重にしたい。
- ・ 地域の人に周知する方法は回覧板が一番だと思うが、先生の負担を軽減するためにも一考する必要がある。(外波山委員)
- ・ 地域と結びつけるという観点からも協働センターは動きやすいと感じる。協働センターの利用者には活発な方が多い。人となりも知っているため、地域の方が参加できるサークルやリーダーなどにマッチングして紹介することが出来る。(協働C)
- ・ 社協でも積極的な人が多いので、声をかけると良いが、昔と考え方や教え方など違うことが多いので、ボランティアに入るために勉強が必要。求める範囲が広すぎるとボランティアが入りにくいので、具体的な例を示すことで取り組みやすくなるのではないか。(田口委員)

### (3) 学校運営協議会の自己目標の確認・決定

司会の榛葉より、昨年度の自己評価表の報告と項目4のコミュニティスクールの理念を色々な場面で発信したいという部分を今年度の目標とすることを確認、決定。

### (4) 夢育やらまいか事業に対する意見書(案)について

教頭の服部より2年生生活科の野菜の苗の購入、体育のプールと図書室の設備の充実について報告があった。

#### その他連絡事項等

- ・ CSディレクターから、令和7年度の学校のボランティア活動について報告があった。
- ・ 司会から、次回会議は、令和8年11月13日(金)午後13時15分から会議室で開催する旨の報告があった。